

軽井沢土曜懇話会

第4回 7月29日(土) 15:00~

外交現場から見た世界と日本

冷戦が終了して、第三次世界大戦勃発の惧れはなくなった。しかし、現在の世界は、平和で豊かな社会の実現という方向に進んでいるとは言い難い。むしろ、地域紛争やテロの激化、環境問題をはじめとする地球的規模問題の深刻化など、問題山積の状況にある。

このような世界の中であって、日本は非常に大きな存在である。日本は、政府開発援助（ODA）、投資、技術移転などによって、開発途上国の発展に大きく貢献してきている。平和の維持のための貢献も近年徐々に増大している。

日本と近隣諸国との関係は、最近必ずしもうまく行っていない。日米関係は基本的に良好であるが、米軍再編問題、BSE問題等の火種がある。日露関係は停滞している。北朝鮮は日本にとって最大の脅威である。中国との関係は、日本外交の最大の中長期的課題である。これらについて、それぞれの関係を詳述したいと思う。

講 師 齊藤 邦彦 氏

(元駐米大使)

- | | |
|-------|---|
| 昭和33年 | 東京大学法学部を卒業 |
| 昭和33年 | 外務省入省 英国、スイス、マレーシア、フランス、ベルギー（EC）にて勤務
条約局長、イラン大使、外務審議官などを歴任 |
| 平成5年 | 外務事務次官 |
| 平成7年 | 駐米大使 |
| 平成11年 | 外務省を退官 |
| 平成12年 | 国際協力事業団（JICA）総裁 |
| 平成15年 | FEC 国際親善協会（現：民間外交推進協会）理事長 |